

第3次東京神学大学中期計画（2025～2029 年度）

1. 理念・目的

- (1) 日本基督教団立神学校としての教職養成の責を担い、かつ教団の世界教會的理想に従ってより広い教職養成に貢献するため、将来に向かってリーダーシップの取れる、ビジョンを持った教職者を育成する。
- (2) 日本においてキリスト教神学を集中的に研究・教育する小規模単科大学としての本学の特質を最大限に活かし、召命共同体としての意識を明確化し、教育の質を向上させる。
- (3) 理念・目的を社会に対して広く公表すると共に、特に伝道者養成が各個教會自身の将来的課題に直結していることの認識を広く諸教會に共有してもらうことで、神学教育への諸教會の参与と連帯とを強化する。

以上の実現のために、以下の各項目に従って本学の運営を行う。

2. 内部質保証

- (1) 内部質保証体制を実質化し、毎年 PDCA サイクルを通じて諸課題の改善を着実に進める。
- (2) 内部質保証システムの有効性を毎年検証し、検証結果を踏まえて、より適切なシステムへと改善する。
- (3) 自己点検評価に、さまざまなステークホルダーの視点を取り入れるよう努める。
- (4) 教育活動の情報公開に努める。

3. 教育・研究組織

- (1) 本学の理念・目的に合致し、適切な教育研究組織の配置が行われている現状を堅実に維持していく。
- (2) 教員の退職の時期を常に正確に把握し、後継者養成の計画を練る。

4. 教育・学習

- (1) 本学の目的を達成するために、教育課程の実態の把握および絶えざる検証と改善に努める。
- (2) 学生の学修成果の把握のため、さまざまな測定指標を用い、常に検証することで、教育課程の改善に努める。
- (3) 学生の学修時間や学修行動の把握に取り組む。
- (4) 入学前教育と初年次教育を整備・実施する。
- (5) 留学生へのサポートの充実を図る。
- (6) 課程博士の生産性向上を目指す。

5. 学生の受け入れ

- (1) 在学生総数 90 名台回復を目指し、学生の受け入れのための具体的な方策として、
 - i) アドミッションポリシーの検証と実質化を図る。
 - ii) キリスト教学校との連携を強化する。
 - iii) ホームページや SNS の活用による入試広報の充実を図る。
 - iv) 広報委員会との連携の下、本学について広く周知する方策を検討する。
 - v) 留学生の受け入れ方策および受け入れ態勢の充実を図る。

- vi) 教職課程についての広報を強化する。
- vii) 高校からの入学者の増加を目指し、方策を検討する。
- viii) 日本基督教団以外の福音主義的信仰に立つ教団・教派への広報活動を強化する。
- ix) 既に教役者として働いている者たちへの広報活動を強化する。
- x) 神学研修志望者の周知に努める。

- (2) 現状と将来の展望を踏まえ、適切な定員管理を検討・実施する。
- (3) 入学者選抜における選抜方法の客観性と妥当性を検証し、改善を図るシステムを構築する。

6. 教員・教員組織

- (1) 教員と職員との役割分担に関し、それぞれの責任を明確にしつつ、教職協働の充実を図る。
- (2) 教員の採用・昇任等の客観化を図る。

7. 学生支援

- (1) 現状を維持し、少人数教育および担任制度を生かし、卒業予定者の人物を把握し、またその希望を丁寧に聞き、進路の紹介を行う。
- (2) 学生支援の方針に準拠した学生支援の充実を図る。

8. 教育研究等環境

- (1) 教育研究環境の整備を目指して、
 - i) 設備の老朽化への対応を進める。
 - ii) 礼拝堂の空調設備を整備する。
 - iii) 本館の給排水管を整備する。
 - iv) 危機管理体制を規程に従って確立する。
- (2) リポジトリの充実を図る。
- (3) 研究倫理規程・コンプライアンス基本方針等の徹底・研修を FD 活動の一環として、毎年、実施する。

9. 社会連携・社会貢献

- (1) 社会連携・社会貢献についての基本方針の着実な実行に努める。

10. 大学運営・財務

- (1) 大学運営
 - i) 教員の SD・FD および職員の SD の活動の定期的実施を定着させる。
- (2) 財務
 - i) 中期財政計画（2027～2031 年度）を策定する。
 - ii) 後援会活動の維持・活性化に努める。

11. 情報公開

- (1) 情報公開の適切性・妥当性について常時点検し、可能な限りの情報公開に努める。

以上